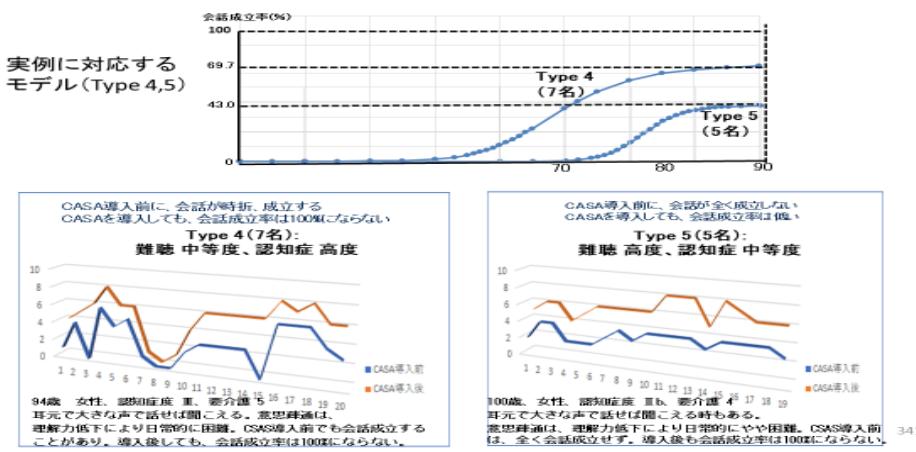
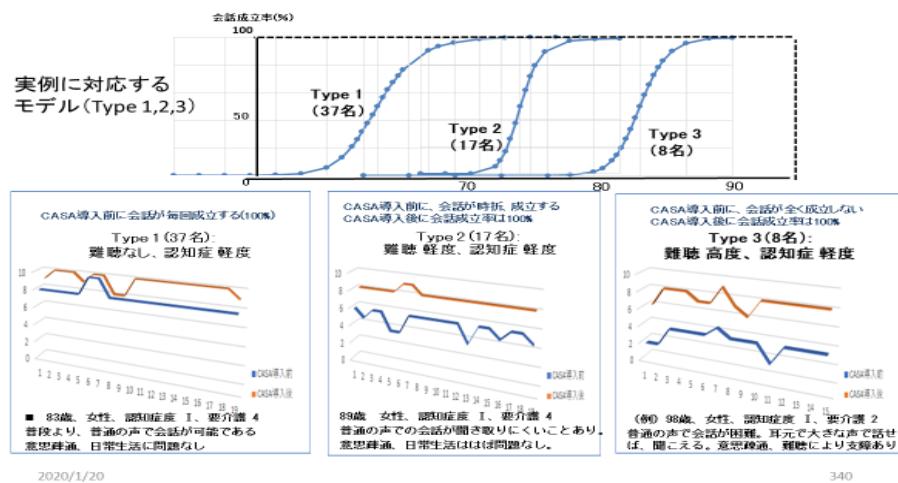


(第 15 報) 日本臨床モニター学会、2019 年 (千葉県)

演題名 : CASA (会話力賦活システム) により難聴と認知症を鑑別する試み—会話に必要な音圧(dB)と会話成功率による類型化

発表者 : 浅田 章¹⁾, 中村 肇²⁾

所属 : すこやか生野¹⁾、淀川キリスト教病院²⁾



概略 : 75 名、のべ 1,210 回の面談を行った。難聴と認知症の鑑別を試みた。CASA により、5 つのタイプに類型化できた。タイプ 3 では、普段の会話が全く成立せず、高度の認知症と誤って診断される可能性がある。CASA は難聴と認知症を鑑別する補助診断の方法として有用である。